『小学算数』3年　年間指導計画（詳細案）

●　さあ、算数の学習をはじめよう！　（上 p.2 ～ 10）

4月中旬［1時間］

時間	学習活動
1	○前学年までの学習内容で解決できる問題について、数学的な見方・考え方を働かせて問題解決的な学習を進めることを通して、算数科における学習の進め方を確認する。 ・教科書の巻末に切り離しが可能な「学び方ガイド」「算数で使いたい見方・考え方」が付いていることを紹介し、算数の学習の進め方を確かめたいときには、いつでも、このシートを見るとよいことを知らせる。
※	・「算数ノートをつくろう」に示されたノート例を見て、算数のノートのかき方を学級で共有する。
※	・「教科書の使い方」を見て、教科書の各コーナーの意図やマークの意味などを確認する。 ・「二次元コード」のコンテンツの種類や使うときの注意事項を確認する。

1　かけ算〔かけ算のきまりを見つけよう〕　（上 p.11 ～ 22）

4月中旬～4月下旬［8時間］

【単元の目標】

（1）乗法について成り立つ性質を理解し、乗法九九などの基本的な計算をもとに、0、10の乗法の計算ができる。
（2）乗法について成り立つ性質や数のまとまりに着目して、0、10の乗法の仕方を考え表現することができる。
（3）乗法の計算の仕方について、既習の計算が使えることや乗法の性質を使うと計算がくふうできるよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①0、10の乗法が、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることを理解している。 ②乗法の交換法則、結合法則、分配法則など、乗法に関して成り立つ性質について理解している。	①乗数や被乗数を多面的に見たり、図と式とを関連づけたりしながら、0、10の乗法の仕方を考え表現している。 ②計算の仕方を振り返ったり、数量と図と関連づけたりしながら、乗法の交換法則、結合法則、分配法則など、計算に関して成り立つ性質を見いだしている。 ③計算に関して成り立つ性質を活用して計算をくふうしている。	①乗法の計算の仕方を振り返り、乗数や被乗数をどのようにみると既習の計算が使えるのかについて気づき、次の学習に活用しようとしている。 ②計算に関して成り立つ性質を使うと計算がくふうできるというよさに気づき、計算するときに活用しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.11）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　0のかけ算（p.12 ～ 14）　2時間			
1	○単元アプローチ（p.12） ・おはじき入れゲームを通して、乗法九九を振り返り、0の乗法に関心を持つ。		態①：観察・発言
2	○被乗数、乗数が0の乗法について、図と式とを関連づけながら、計算の仕方を考え表現し、答えを求めることができる。	・被乗数、乗数が0の場合も、既習の乗法と同様に立式する。 ・被乗数、乗数が0の乗法の意味を知る。	知①：ノート 思①：発言・ノート
2　かけ算のきまり（p.15 ～ 18）　3時間			
3	○乗数や被乗数をどのようにみると既習の計算が使えるのかに気づき、乗数が1ずつ増減したときの積の変化や、乗法の交換法則を理解する。	・7×6の答えの見つけ方を考える。 ・乗数が1ずつ増減したときの積の変化を調べる。 ・乗法の交換法則を調べる。	知②：ノート 態①：観察・発言

4	○数量と図と関連づけながら、計算に関して成り立つ性質を見いだし、乗法の分配法則を理解する。	・乗数や被乗数を分けて計算することを通して、乗法の分配法則を調べる。	知②：ノート 思②：観察・発言
5	○計算の仕方を振り返り、３つの数をかける乗法の計算の仕方を考え、乗法の結合法則を理解する。	・ドーナツの数の求め方を考えることを通して、乗法の結合法則を調べる。	知②：ノート 思②：発言・ノート
3　10 のかけ算（p.19）　1 時間			
6	○計算に関して成り立つ性質を活用しようとし、乗数や被乗数が 10 の乗法の計算の仕方を考え表現する。	・乗数や被乗数が 10 のときの乗法の計算の仕方を考える。	思③：ノート・発言 態②：観察・発言
4　かける数、かけられる数（p.20）　1 時間			
7	○乗数、被乗数が未知数の式について、計算に関して成り立つ性質を活用し、未知数の求め方を考え説明することができる。	・乗数、被乗数が未知数の式について、九九の表や乗法の性質を使って未知数の求め方を考える。	思③：ノート・発言
学習をたしかに（p.21 ～ 22）　1 時間			
8	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「かけ算」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②：ノート 思①②③：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.148）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

2　わり算〔新しい計算のしかたを考えよう〕　（上 p.23 ～ 36）

4 月下旬～ 5 月中旬［10 時間］

【単元の目標】

（1）除法の意味について理解し、除法が用いられる場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができ、その計算ができる。
（2）数量の関係に着目し、除法の計算の仕方を考え表現することができる。
（3）除法の場面を具体物や図などを用いて考えたことを振り返り、計算の仕方をよりよく表現し、身の回りから除法が用いられる場面を見つけ用いようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②除法が用いられる場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができる。 ③除法と乗法や減法との関係について理解している。 ④除数と商が共に 1 位数である除法の計算が確実にできる。 ⑤簡単な場合について、除数が 1 位数で商が 2 位数の除法の計算の仕方を知っている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考え表現している。 ②除法は乗法の逆算ととらえ、除法の計算の仕方を考え表現している。 ③簡単な場合について、除数が 1 位数で商が 2 位数の除法の計算の仕方を考え表現している。	①除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ②除法が用いられる場面を身の回りから見つけ、除法を用いようとしている。（「わり算探し」など） ③自分が考えた除法の計算の仕方について、具体物や図と式とを関連づけて考えようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.23）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　1人分の数をもとめる計算（p.24～27）　3時間			
1・2	○単元アプローチ（p.24） ・おかしの分け方について、具体物や図などを用いて考える。		知①：発言・ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言
	○等分除の場面で、数量の関係を具体物や図などを用いて考え表現し、除法の意味や式の表し方を理解する。	・具体物の操作を通して、等分除の分け方を考える。 ・等分除の場面における除法の意味と式の表し方を知る。 ・「わり算」の用語を知る。	
3	○等分除の場面を除法の式に表し、乗法の逆算ととらえ、計算の仕方を考え表現し、答えを求めることができる。	・乗法九九を使った等分除の答えの求め方を考える。	知②：ノート 思②：発言・ノート
2　何人分かをもとめる計算（p.28～31）　3時間			
4	○包含除の場面で、数量の関係を具体物や図などを用いて考え表現し、除法の意味や式の表し方を理解する。	・具体物の操作を通して、包含除の分け方を考える。 ・包含除の場面における除法の意味と式の表し方を知る。 ・「わられる数」「わる数」の用語を知る。	知①：発言・ノート 思①：観察・発言
5	○包含除の場面を除法の式に表し、乗法の逆算ととらえ、計算の仕方を考え表現し、答えを求めることができる。	・乗法九九を使った包含除の答えの求め方を考える。	知②④：ノート 思②：観察・発言
6	○等分除と包含除について、２つの場面を身の回りから見つけ、具体物や図などを用いて考え表現し、どちらも同じ式で表すことができることを乗法と関連づけて理解する。	・6÷3の式になる問題をつくる。 ・等分除と包含除の２つの場面を比べ、除法として統合してとらえる。	知③：ノート 思①：ノート・発言 態②：観察
3　1や0のわり算（p.32）　1時間			
7	○被除数が0の場合と、除数が1の場合の除法の場面を式に表し、答えを求めることができる。	・答えが1や0になる除法や除数が1の場合の除法の意味について考え、式に表す。	知①②：発言・ノート
4　答えが九九にないわり算（p.33～34）　2時間			
8	○何十を1位数でわり整除できる除法について、具体物や図と式とを関連づけて計算の仕方を考え表現する。	・60÷3の計算の仕方を考える。 ・何十÷（1位数）の計算の仕方をまとめる。	思③：観察・発言 態③：発言
9	○（2位数）÷（1位数）＝（2位数）（各位で整除）の除法について、具体物や図と式とを関連づけて計算の仕方を考え表現し、理解する。	・69÷3の計算の仕方を考える。 ・（2位数）÷（1位数）＝（2位数）（各位で整除）の計算の仕方をまとめる。	知⑤：ノート 思③：観察・発言 態③：発言
学習をたしかに（p.35～36）　1時間			
10	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「わり算」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～⑤：ノート 思①②③：ノート 態①②③：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.148）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

3　時間の計算と短い時間〔時こくや時間のもとめ方を考えよう〕　（上 p.37 ～ 46）

5 月中旬［5 時間］

【単元の目標】

（1）時間の単位（秒）やその関係を理解し、日常生活に必要な時刻や時間を求めることができる。
（2）時間の単位に着目し、日常生活の場面について、時計の模型や数直線を用いて時刻や時間の求め方を考え表現することができる。
（3）日常生活で必要な時刻や時間の求め方を考察したり、「秒」の感覚をとらえたりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①秒について知っている。 ②日常生活に必要な時刻や時間を求めることができる。	①日常生活の場面について、時計の模型や数直線を用いて時刻や時間の求め方について考え表現している。	①1 秒や 10 秒、60 秒の感覚を、手をたたくなどの体験を通してとらえようとしている。 ②必要になる時刻や時間を測定して表したり、必要な時刻や時間の求め方について考えたりしようとしている。 ③日常生活で時間の単位（秒）が用いられている場面を調べようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.37）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　時間の計算（p.38 ～ 42）　3 時間			
1	○単元アプローチ（p.38） ・町の見学の計画を立てる活動を通して、必要な時刻や時間を考える。		知②：ノート 思①：観察・発言 態②：観察
	○時計の模型や数直線を用いて、ある時刻から何分後の時刻の求め方について考え表現し、求めることができる。	・町を見学する場面について、時計、数直線を使って、ある時刻から何分後の時刻の求め方を考える。	
2	○時計の模型や数直線を用いて、時間の求め方を考え表現し、求めることができる。	・町を見学する場面について、時計、数直線を使って、時間の求め方を考える。	知②：ノート 思①：観察・発言 態②：観察
3	○時計の模型や数直線を用いて、ある時刻から何分前の時刻の求め方を考え表現し、求めることができる。	・町を見学する場面について、時計、数直線を使って、ある時刻から何分前の時刻の求め方を考える。	知②：ノート 思①：観察・発言 態②：観察
2　秒（p.43 ～ 44）　1 時間			
4	○手をたたくなどの体験を通して、1 分より短い時間の単位「秒」をとらえようとし、1 分＝60 秒であることを理解する。	・時間の単位「秒」を知る。 ・1 分＝60 秒を知る。 **【使ってみよう】** ・「秒」に関する量感を知る活動に取り組む。	知①：ノート・発言 態①③：観察
学習をたしかに（p.45 ～ 46）　1 時間			
5	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「時間の計算と短い時間」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②：ノート 思①：ノート 態①②③：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.149）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

4　たし算とひき算〔筆算のしかたを考えよう〕　（上 p.47 ～ 62）

5 月下旬～ 6 月上旬［11 時間］

【単元の目標】

（1）3、4 位数の加減計算が基本的な計算をもとにしてできることを理解し、筆算で計算ができる。また、2 位数どうしの加減計算の答えを暗算で求めることができる。

（2）十進位取り記数法や数のまとまりに着目し、3、4 位数の加減計算の仕方を考え表現することができる。また、計算に関して成り立つ性質を見いだし、活用することができる。

（3）既習事項をもとに 3、4 位数の加減計算の仕方を考えようとしている。また、計算に関して成り立つ性質を活用するよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①3 位数や 4 位数の加法及び減法の計算が 2 位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解している。 ②3 位数や 4 位数の加法及び減法の筆算の仕方について理解している。 ③3 位数や 4 位数の加法及び減法の計算が確実にできる。 ④2 位数どうしの加法及びその逆の減法の答えを暗算で求めることができる。	①3 位数や 4 位数の加法及び減法の計算の仕方について、十進位取り記数法による数の表し方や十を単位としてみる数の見方をもとに考え表現している。 ②3 つの数の加法に関して、具体的な場面で考え、結合法則を見いだしている。 ③加法の結合法則を活用して、計算をくふうしたり計算の確かめをしたりしている。	①学習したことをもとに、3 位数や 4 位数の加法及び減法の計算の仕方を考えようとしている。 ②計算に関して成り立つ性質を使うと計算がくふうできるというよさに気づき、計算するときに活用しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.47）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　たし算（p.48 ～ 51）　3 時間			
1・2	○単元アプローチ（p.48） ・リサイクル活動で集めた空き缶の数を話し合い、3 位数どうしの加減の計算に関心を持つ。		態①：観察・発言
	○十進位取り記数法による数の表し方をもとに百の位へ繰り上がる（3 位数）+（3 位数）の計算の仕方を考え表現し、2 位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解する。	・375＋264 の筆算の仕方を考える。 ・（3 位数）+（3 位数）の筆算の仕方をまとめる。	知①：ノート 思①：観察・発言
3	○学習したことをもとに、十、百の位へ繰り上がる（3 位数）+（2、3 位数）や、千の位へ繰り上がる（3 位数）+（3 位数）の計算の仕方を考え表現し、筆算の仕方を理解する。	・237＋195、564＋239、745＋531 の筆算の仕方を考える。 ・（3 位数）+（3 位数）の派生型の筆算の仕方をまとめる。	知②：ノート 態①：観察・発言
2　ひき算（p.52 ～ 55）　3 時間			
4	○十進位取り記数法による数の表し方をもとに百の位から繰り下がる（3 位数）−（3 位数）の計算の仕方を考え表現し、2 位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解する。	・424－293 の筆算の仕方を考える。 ・（3 位数）−（3 位数）の筆算の仕方をまとめる。	知①：ノート 思①：観察・発言
5	○学習したことをもとに、繰り下がりが 2 回ある（3 位数）−（2、3 位数）の計算の仕方を考え、筆算の仕方を理解する。	・625－267、243－56、546－467 の筆算の仕方を考える。 ・（3 位数）−（2、3 位数）の派生型の筆算の仕方をまとめる。	知②：ノート 態①：観察・発言

6	○十の位が空位で波及的に繰り下がる（何百何）－（１、２、３位数）の計算の仕方を理解する。	・402－238 の筆算の仕方を考える。 ・301－24、405－7、901－208 の筆算の仕方を考える。 ・百の位から波及的に繰り下がる（何百何）－（１、２、３位数）の筆算の仕方をまとめる。	知②：ノート
3　大きい数の筆算（p.56 ～ 57）　2 時間			
7	○十進位取り記数法による数の表し方をもとに４位数の加法や減法の計算の仕方を考え表現し、筆算の仕方を理解する。	・5386＋1492 の筆算の仕方を考える。 ・5386－1492 の筆算の仕方を考える。 ・４位数の加法や減法の筆算の仕方をまとめる。	知②：ノート 思①：観察・発言
8	○十進位取り記数法による数の表し方や十を単位としてみる数の見方をもとに（千いくつ）－（３位数）の計算の仕方を考え表現し、筆算で計算ができる。	・1004－758 の筆算の仕方を考える。 ・（千いくつ）－（３位数）の筆算の仕方をまとめる。	知③：ノート 思①：観察・発言
4　計算のくふう（p.58）　1 時間			
9	○加法の結合法則を見いだし、計算がくふうできるよさに気づき、活用しようとする。	・３つの数の加法の仕方を考える。 ・加法の結合法則を使って、くふうして計算する。	思②③：観察・発言 態②：発言
5　暗算（p.60）　1 時間			
10	○計算に関して成り立つ性質を活用し、２位数どうしの加法や減法の答えを暗算で求めることができる。	・２位数の加法・減法の暗算の仕方を考える。	知④：ノート 態②：観察
学習をたしかに（p.61 ～ 62）　1 時間			
11	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「たし算とひき算」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～④：ノート 思①②③：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.150）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

5　ぼうグラフ〔調べたことをグラフや表に整理しよう〕　（上 p.63 ～ 82）

６月中旬～６月下旬［13 時間］

【単元の目標】

（１）棒グラフの特徴やその用い方を理解し、データを分類整理したり、表や棒グラフに表したり、よんだりすることができる。
（２）データを整理する観点に着目し、表や棒グラフからデータの特徴や傾向をとらえ、表現することができる。
（３）表や棒グラフに表してよみ取るなどの統計的な問題解決のよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し、簡単な２次元の表に表したりよんだりすることができる。 ②棒グラフで表すと、数量の大小や差などがとらえやすくなることなど、棒グラフの特徴やその用い方を理解している。	①データをどのように分類整理すればよいかについて、解決したい問題に応じて観点を定めている。 ②身の回りの事象について、表や棒グラフに表し、特徴や傾向をとらえ考えたことを表現したり、複数のグラフを比較して相違点を考えたりしている。	①進んで分類整理し、それを表や棒グラフに表してよみ取るなどの統計的な問題解決のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.63）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　整理のしかた（p.64 ～ 66）　2 時間			
1・2	○単元アプローチ（p.64） ・クラスで好きなスポーツを調べ、資料を整理することに関心を持つ。		態①：観察・発言
	○データをくふうして分類整理する方法を考え表現し、簡単な１次元の表にまとめることができる。	・「すきなスポーツ調べ」について、「正」の字をかいて、資料を集計する方法を知る。 ・「すきなスポーツ調べ」について、表に整理する方法を知る。	知①：ノート 思①：観察・発言
2　数の大きさを表すグラフ（p.67 ～ 72）　5 時間			
3	○データを進んで分類整理しようとし、複数のグラフを比較して相違点を考え表現するとともに、棒グラフやその用い方を理解する。	・「すきなスポーツ調べ」を表した棒グラフのよみ方を知る。 ・数の多い順に示した「すきなスポーツ調べ」の棒グラフをよみ、棒グラフの特徴を考える。	知②：発言・ノート 思②：発言・ノート 態①：観察・発言
4	○横向きの棒グラフや１目盛りが１でない棒グラフの特徴やその用い方を理解する。	・項目の並べ方や横向きの棒グラフのよみ方を考える。 ・１目盛りが１でない棒グラフのよみ方を考える。	知②：発言・ノート
5・6	○１目盛りの大きさを考え、棒グラフに表し、その特徴や傾向を理解する。	・「乗り物調べ」の結果を、棒グラフにかく。 ・棒グラフのかき方をまとめる。	知②：ノート 思②：ノート
7	○目盛りのつけ方が異なる２つの棒グラフの相違点を考え表現する。	・目盛りのつけ方が異なる「かりた図かんの数」を表した２つの棒グラフのちがいを考える。	思②：発言・ノート
3　表とグラフの見方（p.73 ～ 79）　5 時間			
8・9	○２次元の表の見方を理解し、２次元の表に表すよさに気づき、活用しようとする。	・３つの表から、求められた項目の数値をよむ。 ・２次元の表の見方を知る。	知①：発言・ノート 態①：観察・発言
10	○２次元の表をよみ、データをどのように分類整理すればよいか考え、複数の棒グラフを組み合わせたグラフに表し、それぞれのグラフの特徴や傾向を理解する。	・「すきな給食調べ」についてまとめた２次元の表を、複数の棒グラフを組み合わせたグラフに表す方法を考える。 ・複数の棒グラフを組み合わせたグラフから、資料の特徴を考える。	知①②：観察・発言 思①②：発言・ノート
11・12	○身の回りの事象について調べ、表やグラフに表すことで、統計的な問題解決ができるよさに気づく。	**【使ってみよう】** ・身の回りのことを調べて、表や棒グラフに表す。	知①②：ノート 態①：観察・ノート
学習をたしかに（p.80 ～ 82）　1 時間			
13	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「ぼうグラフ」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②：ノート 思①②：ノート 態①：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.151）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

6　あまりのあるわり算〔あまりのあるわり算のしかたを考えよう〕　（上 p.83 ～ 95）

7 月上旬～ 7 月中旬［8 時間］

【単元の目標】

（1）あまりのある除法の意味や計算の仕方を理解して、その計算ができる。
（2）数量の関係に着目し、あまりのある除法の計算の仕方を考えたり、問題場面に応じてあまりの意味や処理の仕方を考えたりすることができる。
（3）あまりのある除法の場面を具体物や図などを用いて考えたことを振り返り、計算の仕方をよりよく表現したり、問題場面に照らし合わせて答えを吟味したりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①包含除や等分除で、わりきれない場合はあまりを出すことを知っている。 ②除数と商が共に 1 位数であまりのある除法について、その計算や答えの確かめが確実にできる。 ③あまりは除数より小さいことを知っている。	①あまりのある除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考え表現している。 ②あまりのある除法のあまりについて、日常生活の場面に応じて考えている。	①あまりのある除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考え表現しようとしている。 ②あまりのある除法が用いられる場面を身のまわりから見つけ、除法を用いようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.83）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　あまりのあるわり算（p.84 ～ 89）　4 時間			
1・2	○単元アプローチ（p.84） ・20 個のスーパーボールを同じ数ずつ袋に入れ、除法の場面でわりきれる場合やわりきれない場合があることに気づく。		態②：観察
1・2	○包含除でわりきれない場面を身のまわりから見つけ、その場面の数量の関係を具体物や図などを用いて考え表現することによって、あまりのある除法の式と答えについて知る。	・あまりのある除法の答えの見つけ方を考える（包含除）。 ・あまりのある除法の式の表し方、用語「わりきれない」「わりきれる」の意味を知る。	知①：ノート 思①：観察・発言 態①：観察
3	○あまりは除数より小さいことを理解する。	・ひまりさんとそうたさんのあめの分け方を比べる（包含除）。 ・あまりと除数の大きさの関係を考えて、きまりをまとめる。	知③：ノート
4	○等分除の場面の数量の関係を具体物や図などを用いて考え表現し、あまりのある除法の答えを求めることができる。	・あまりのある除法の答えの見つけ方を考える（等分除）。	知①②：ノート 思①：観察・発言
2　答えのたしかめ（p.90）　1 時間			
5	○「わる数」「わられる数」「商」「あまり」の関係を、具体物や図などを用いて考え表現し、除法の答えの確かめが確実にできる。	・あまりのある除法の答えの確かめ方を考える。	知②：ノート 思①：観察・発言
3　あまりを考える問題（p.92 ～ 93）　2 時間			
6	○問題場面に応じて、あまりの適切な処理の仕方を考える。	・あまりの処理が必要な除法の場面について考える（商＋1が必要な場合）。	思②：ノート・発言
7	○問題場面に応じて除法を用いて、あまりの処理の仕方を考える。	・あまりの処理が必要な除法の場面について考える（商がそのままでよい場合）。	思②：ノート・発言 態②：観察・ノート
学習をたしかに（p.94 ～ 95）　1 時間			
8	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「あまりのあるわり算」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②③：ノート 思①②：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.152）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

● ふくしゅう （上 p.96 ～ 98）

7 月中旬［1 時間］

時間	学習活動
1	○1＜見方・考え方をみがこう＞で、単元で培った数学的な見方・考え方を振り返る。 ○2以降で、1 学期の学習内容の理解を確認する。 ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

7 大きい数〔10000 より大きい数を表そう〕 （上 p.99 ～ 113）

9 月上旬～ 9 月中旬［9 時間］

【単元の目標】

（1）万や億の単位、10 倍、100 倍、1000 倍、$\frac{1}{10}$の大きさの数及びそれらの表し方について理解し、数を相対的な見方でとらえることができる。

（2）数のまとまりに着目し、十進位取り記数法による数の表し方や比べ方を考えたり、数の相対的な見方を活用して大きい数の計算の仕方を考えたりすることができる。

（3）身の回りの大きな数に関心を持つとともに、数のまとまりや数の相対的な見方を活用したことを振り返り、そのよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①万や億の単位について知っている。 ② 10 倍、100 倍、1000 倍、$\frac{1}{10}$の大きさの数及びそれらの表し方について知っている。 ③十、百、千、万を単位とする数の相対的な大きさの見方を用いて数をとらえることができる。	①数のまとまりに着目し、万を超える数の大きさの比べ方や表し方を、図や数直線を用いるなどして考えている。 ②数を比べる際には、十進位取り記数法をもとに大きい位から見れば大小を比べられることに気づいている。 ③十、百、千、万を単位とする数の相対的な見方を活用して、計算の仕方を考えている。	①万の単位の数が使われていることを身の回りから見つけ、その大きさをつかんだりよんだりしようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.99）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　数の表し方（p.100 ～ 109）　6 時間			
1	○単元アプローチ（p.100） ・日本に関係のある数をよんで、1 万よりも大きい数について関心を持つ。		態①：観察・発言
	○数のまとまりに着目し、図を用いて、一万の位までの数の表し方を考え、数の構成を理解する。	・リサイクルコーナーで回収された牛乳パックの枚数を調べる。 ・一万の位までの数の構成、よみ方、かき方を知る。	知①：ノート 思①：発言
2	○万の単位の数が使われていることを身の回りから見つけようとし、数のまとまりに着目し、図を用いて、千万の位までの数の表し方を考えるとともに、数の構成を理解する。	・日本の小学生、中学生、高校生をあわせた数のよみ方や表し方を考える。 ・千万の位までの数の構成やよみ方、かき方を知る。	知①：ノート 思①：発言・ノート 態①：観察・発言
3	○十、百、千、万を単位として、数の相対的な大きさの見方を用いて数をとらえることができる。	・1000 を 24 個集めた数を考える。 ・18000 は、1000 を何個集めた数かを考える。	知③：ノート
4	○数直線をもとに数の相対的な大きさをとらえ、1 億の構成や表し方を理解する。	・数直線に表された数をよむ。 ・数を数直線に表す。 ・1 億の意味やよみ方、かき方を知る。	知①③：ノート

5	○数の相対的な大きさの見方をもとに、大きい数の計算の仕方や、数の大小関係の表し方を考える。	・大きい数の計算の仕方を考える。 ・数の大小比較をし、>、<、＝を使って表す。 ・等号、不等号の意味を知る。	思②③：発言・ノート
6	○数の大きさの表し方を、図や数直線を用いるなどして考える。	・24000 をいろいろな見方で表す。	思①②：発言・ノート
2　10 倍、100 倍、1000 倍した数と、10 でわった数（p.110 ～ 111）　2 時間			
7	○整数を 10 倍した数の表し方を、十進位取り記数法をもとに考え、理解する。	・20 を 10 倍した数を求める。 ・25 を 10 倍した数を求める。	知②：ノート 思②：発言
8	○整数を 100 倍、1000 倍、$\frac{1}{10}$にした数の表し方を理解する。	・25 を 100 倍、1000 倍した数を求める。 ・200 を 10 でわった数を求める。	知②：ノート
学習をたしかに（p.112 ～ 113）　1 時間			
9	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「大きい数」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②③：ノート 思①②③：ノート 態①：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.153）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

8　長さ〔長い長さを表そう〕　（上 p.115 ～ 124）

9 月中旬～ 9 月下旬［6 時間］

【単元の目標】

（1）長さの単位（km）について理解するとともに、測定するものに応じておよその見当をつけて計器を選択し、長さを測定したり表したりすることができる。
（2）既習の長さの単位との関係に着目して、長さを的確に表現したり比べたりすることができる。
（3）およその見当をつけて効率的に長さを測定するよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長さの単位（km）について知り、長さの単位のいくつ分かで測定できることを理解している。 ②ものの長さについて、適切な単位で表すことができる。 ③長さについて、およその見当をつけ計器を適切に選んで測定することができる。	①既習の長さのはかり方や表し方を振り返り、長い長さのはかり方を考え表現している。	①長さについて、およその見当をつけ、効率的に測定しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.115）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　長さ調べ（p.116 ～ 119）　3 時間			
1・2	○単元アプローチ（p.116） ・教室の縦と横の長さの調べ方について考える。		知③：観察・発言 思①：発言 態①：観察
	○既習の長さのはかり方や表し方を振り返り、長い長さのはかり方について考え表現するとともに、およその見当をつけ、適切な計器を選択して測定することができる。	・教室の縦と横の長さを調べる。 ・巻き尺のしくみを知る。 **【使ってみよう】** ・10m と思うところまで歩き、その長さを巻き尺で測定する。	
3	○およその見当をつけ、適切な計器を選択し、まるいものや身の回りのものの長さを測定することができる。	・まるいものの長さをはかる。 **【使ってみよう】** ・身の回りのものの長さを、巻き尺を使って測定する。	知③：観察 態①：観察・ノート

2　道のりときょり（p.120～122）　2時間			
4	○「km」について知り、1km＝1000mなどの関係をもとにものの長さを適切な単位で表すことができる。	・道のり、距離の意味を知る。 ・絵地図を見て、道のりや距離を求める。 ・長さの単位「km」を知る。	知①②：発言・ノート
5	○長さについて、およその見当をつけ、効率的に測定しようとする。	**【使ってみよう】** ・1kmの道のりがどれぐらいあるかを調べる。	態①：観察
学習をたしかに（p.123～124）　1時間			
6	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「長さ」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②③：ノート 思①：ノート 態①：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.154）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

9　円と球〔まるい形を調べよう〕　（上 p.125～137）

9月下旬～10月上旬［9時間］

【単元の目標】

（1）円や球について、中心、直径、半径の意味や性質を理解し、コンパスを用いて円を作図したり、長さをうつし取ったりすることができる。
（2）図形の構成要素に着目し、円や球の性質を見いだすことができる。
（3）身の回りから円や球を見つけようとしたり、円や球の特徴を調べようとしたりしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①円や球について、中心、半径、直径の意味やそれぞれのもつ性質を知っている。 ②コンパスを用いて、円を作図することなどができる。	①円の半径や直径を観察したり作図したりすることを通して、円の半径や直径は無数にあるなどの性質を見いだしている。 ②球の観察などを通して、球を平面で切ると切り口は円になり、球をちょうど半分に切った場合の切り口が最大になるなどの性質を見いだしている。	①円と球に関心をもち、特徴を調べようとしている。 ②身の回りの円や球が、日常生活でどのように活用されているのか調べようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.125）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　円（p.126～133）　6時間			
1・2	○単元アプローチ（p.126） ・玉入れをするためのいろいろな並び方を考え、かごからの距離のちがいに着目させる。		知①：ノート 思①：観察・ノート 態①：観察・発言
	○円に関心をもち、円の半径を観察したり作図したりすることを通して、円の半径の性質を見いだし、円、中心、半径の意味を理解する。	・まるい形のかき方を考える。 ・円、中心、半径の意味を知る。 ・円の半径の性質を調べる。	
3	○直径の意味や性質、半径との関係を理解する。	・直径の意味を知る。 ・直径と半径の関係を調べる。	知①：発言・ノート
4	○コンパスを用いて円を作図することができる。	・コンパスの使い方を知り、円をかく。	知②：観察・ノート
5	○円に関心を持ち、模様をかく活動を通して、円の特徴を調べようとしている。	**【使ってみよう】** ・コンパスを使って、円を用いた模様をかく。	態①：観察・発言

6	○折れ線と直線の長さを比べる方法を考え、コンパスを用いて長さをうつし取ることができる。	・コンパスを使って、線分を区切ったり、長さをうつし取ったりする。	知②：観察・ノート
2　球（p.134 ～ 135）　2 時間			
7	○球の観察などを通して、球の意味や性質を見いだし、理解する。	・球の意味や性質を知る。	知①：発言・ノート 思②：発言・ノート
8	○身の回りから円や球の形をしたものを見つけ、日常生活でどのように活用されているのか調べようとしている。	**【使ってみよう】** ・身の回りから円や球の形をしたものを探す。	態②：観察
学習をたしかに（p.136 ～ 137）　1 時間			
9	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「円と球」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②：ノート 思①②：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.155）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

10　かけ算の筆算（１）〔かけ算のしかたをくふうしよう〕　（下 p.5 ～ 20）

10 月上旬～ 10 月下旬［11 時間］

【単元の目標】

（１）２位数や３位数に１位数をかける乗法の計算について、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることを理解し、筆算で計算ができる。

（２）数のまとまりや位に着目し、図と式とを関連づけたりしながら、２位数や３位数に１位数をかける乗法の計算の仕方を考え表現することができる。

（３）２位数や３位数に１位数をかける乗法の計算の仕方について、筆算形式のよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①２位数や３位数に１位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることを理解している。 ②２位数や３位数に１位数をかける乗法の筆算の仕方について理解している。 ③２位数や３位数に１位数をかける乗法の筆算が確実にでき、それを適切に用いることができる。	①被乗数を多面的に見たり、図と式とを関連づけたりしながら、２位数や３位数に１位数をかける乗法の計算の仕方を考え表現している。 ②計算に関して成り立つ性質を活用して計算をくふうしている。 ③計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の確かめをしている。	①乗法の計算の仕方を振り返り、被乗数をどのようにみると既習の計算が使えるのかについて気づき、次の学習に活用しようとしている。 ②筆算をしたり見積もりをしたりする際に、暗算が生かせるというよさに気づき、実際にしようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.5）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　何十、何百のかけ算（p.6 ～ 8）　２時間			
1	○単元アプローチ（p.6） ・さし絵を見て、（２位数）×（１位数）の計算について考え、問題づくりをする。		態①：観察・発言
2	○被乗数を 10 や 100 のまとまりで見て、何十、何百に１位数をかける計算の仕方を考え表現し、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることを理解する。	・20×3 の計算の仕方を考える。 ・（何十）×（何）の計算の仕方をまとめる。 ・200×7 の計算の仕方を考える。	知①：ノート 思①：発言・ノート
2　２けたの数にかける計算（p.9 ～ 14）　４時間			
3	○被乗数を位に分けて見ることに気づき、それを図や式に表し、繰り上がりのない（２位数）×（１位数）の計算の仕方を考え表現し、筆算の仕方を理解する。	・23×3 の計算の仕方を考える。 ・繰り上がりのない（２位数）×（１位数）の筆算の仕方をまとめる。	知①②：観察・発言 思①③：発言・ノート 態①：観察・ノート
4	○被乗数を位ごとに分けて考え、十の位へ繰り上がる（２位数）×（１位数）の計算の仕方を考え表現し、筆算の仕方を理解する。	・28×3 の筆算の仕方を考える。 ・繰り上がりのある（２位数）×（１位数）の筆算の仕方をまとめる。	知①②：ノート 思①③：発言・ノート
5	○百の位へ繰り上がる場合や、十、百の位へ繰り上がる場合の（２位数）×（１位数）の筆算の仕方を理解し、適切に用いることができる。	・72×3 の筆算の仕方を考える。 ・42×8 の筆算の仕方を考える。 ・十、百の位へ繰り上がる（２位数）×（１位数）の筆算の仕方をまとめる。	知②③：ノート
6	○部分積の和が繰り上がる（２位数）×（１位数）の筆算の仕方を理解し、適切に用いることができる。	・46×7 の筆算の仕方を考える。 ・29×4 の筆算の仕方を考える。 ・部分積の和が繰り上がる（２位数）×（１位数）の筆算の仕方をまとめる。	知②③：ノート

3　3けたの数にかける計算（p.15～17）　3時間			
7・8	○被乗数を位ごとに分けて考え、（3位数）×（1位数）の筆算の仕方を考え表現し、適切に用いることができる。	・312×3の計算の仕方を考える。 ・232×4、367×2の筆算の仕方を考える。 ・（3位数）×（1位数）の筆算の仕方をまとめる。	知②③：発言・ノート 思①③：発言・ノート
9	○十、百、千の位へ繰り上がる（3位数）×（1位数）の筆算の仕方を理解し、適切に用いることができる。	・432×3の筆算の仕方を考える。 ・百の位との部分積が2けたになる（3位数）×（1位数）の筆算の仕方を考える。 ・部分積が複数回繰り上がる場合の（3位数）×（1位数）の筆算の仕方を考える。	知②③：ノート
4　暗算（p.18）　1時間			
10	○位ごとに分ける計算をくふうし、簡単な乗法が暗算でできる。	・（2位数）×（1位数）の暗算の仕方を考える。	知①：観察・ノート 思②：発言・ノート 態②：観察・発言
学習をたしかに（p.19～20）　1時間			
11	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「かけ算の筆算（1）」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②③：ノート 思①②③：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.130）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

11　小数〔1より小さい数を表そう〕　（下 p.21～34）

10月下旬～11月中旬［10時間］

【単元の目標】

（1）端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを理解し、小数第一位までの小数の加減計算ができる。
（2）数のまとまりに着目して、小数の大小比較や加減計算の仕方を考え表現することができる。
（3）端数部分の大きさを表せる小数のよさに気づき、身の回りから小数が用いられる場面を見つけようとしたり、今後の学習に活用したりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知っている。 ②小数の表し方及び$\frac{1}{10}$の位について知っている。 ③量を測定する単位の構成が、十進構造になっていることについて理解している。 ④$\frac{1}{10}$の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知っている。	①小数の大きさについて、図や数直線を用いて表したり、0.1のいくつ分かを考えたりして、大きさを比べたり、小数の加法及び減法の計算の仕方を考えたりしている。 ②小数やその計算が日常生活にも使えることに気づいている。	①小数でも数の大きさを比べたり、計算したりできるかどうか考えたことを振り返り、0.1のいくつ分と見ることで整数と同じ見方ができることに気づき、次の学習に活用しようとしている。 ②端数部分の大きさを表すことができるというよさに気づき、身の回りから、小数が用いられる場面を見つけようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.21）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　小数（p.22～26）　3時間			
1・2	○単元アプローチ（p.22） ・身の回りから小数で表されているものを探し、小数に関心を持つ。		態②：観察・発言
	○1dLより小さい水のかさの表し方や単位の構成が十進構造になっていることを理解する。	・1dLに満たない大きさの表し方を考える。 ・小数を使ったかさの表し方を知る。 ・「小数」「小数点」「整数」「小数第一位」の意味を知る。	知①②③：発言・ノート

3	○1cm より小さい長さの表し方や単位の構成が十進構造になっていることを理解する。	・小数を使った長さの表し方を考える。	知①②③：発言・ノート 態②：観察・発言
2　小数の大きさ（p.27 ～ 28）　2 時間			
4	○数直線を用いて 0.1 のいくつ分かを考え表現し、小数のしくみや大きさを理解する。	・数直線を使って、小数のしくみや大小を考える。 ・小数の加法的・乗法的構造を考える。	知②：発言・ノート 思①：発言・ノート
5	○小数の大きさについて、0.1 のいくつ分と見ることで整数と同じ見方ができることに気づき、多面的に考え表現する。	・2.8 をいろいろな見方で表す。	思①：観察・発言 態①：発言・ノート
3　小数のたし算とひき算（p.29 ～ 32）　4 時間			
6	○図や数直線を用いて、小数（第一位まで）の加法の計算の仕方を考え表現し、日常生活で使えることに気づく。	・0.5＋0.2 の計算の仕方を考える。	思①②：観察・発言
7	○図や数直線を用いて、小数（第一位まで）の減法の計算の仕方を考え表現し、日常生活で使えることに気づく。	・0.9－0.2 の計算の仕方を考える。	思①②：観察・発言
8	○小数（第一位まで）の加法の筆算の仕方を理解し、筆算で計算ができる。	・2.4＋1.2 の筆算の仕方を考える。 ・小数（小数第一位）の加法（繰り上がりあり）の筆算の仕方を考える。 例　2.7＋5.6 ・答えの末位の 0 の処理や、桁数が違う小数の加法の筆算の仕方を考える。 例　3.2＋1.8、2.7＋3	知④：発言・ノート
9	○小数（第一位まで）の減法の筆算の仕方を理解し、筆算で計算ができる。	・3.5－2.3 の筆算の仕方を考える。 ・小数（小数第一位）の減法（繰り下がりあり）の筆算の仕方を考える。 例　7.5－4.7 ・答えに 0 と小数点を補う処理や、桁数が違う小数の減法の筆算の仕方を考える。 例　5－2.3、6.4－5.8	知④：発言・ノート
学習をたしかに（p.33 ～ 34）　1 時間			
10	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「小数」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～④：ノート 思①②：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.130）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

12　重さ〔ものの重さをはかろう〕　（下 p.35 ～ 48）

11 月中旬～ 11 月下旬［ 8 時間］

【単元の目標】

（1）重さの単位（g、kg、t）やメートル法の単位のしくみについて理解し、適切な重さの単位や計器を選び、重さを測定したり表したりすることができる。
（2）長さ、かさ、重さの単位に共通する関係に着目し、接頭語が表す倍の関係（メートル法の単位のしくみ）を統合的にとらえることができる。
（3）メートル法の単位のしくみのよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①重さの単位（g、kg、t）について知り、重さも単位のいくつ分かで測定できることを理解している。 ②ものの重さについて、適切な単位で表すことができる。 ③重さについて、およその見当をつけ計器を適切に選んで測定することができる。 ④メートル法の単位のしくみについて理解している。	①長さやかさと同様に、重さも同じものを単位にし、そのいくつ分で考え表現していることに気づく。 ②長さ、かさ、重さについて、1km は 1000m、1L は 1000mL、1kg は 1000g などの関係をもとに、既習の単位を整理し、接頭語が表す倍の関係などに気づいている。 ③メートル法の単位のしくみを活用し、新しい単位に出会ったときも類推して量の大きさを考えている。	①重さについて、およその見当をつけ、効率的に測定しようとしている。 ②長さや重さなどの単位を用いて表したことを振り返り、「m」「c」「k」などの接頭語が共通に用いられているというメートル法の単位のしくみのよさに気づき、身の回りで使われている新しい量の単位に出会ったときも類推してその単位の大きさや関係について考えようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.35）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　重さくらべ（p.36 ～ 38）　2 時間			
1	○単元アプローチ（p.36） ・身の回りのものの重さに関心を持ち、重さ比べの方法を考える。		態①：観察・発言
2	○重さの単位「g」を知り、その単位のいくつ分かで考え表現し、測定することができる。	・重さ比べの方法を考える。（直接比較、間接比較、任意単位、普遍単位での比較） ・重さの単位「g」を知る。	知①：発言・ノート 思①：観察
2　はかりの使い方（p.39 ～ 44）　4 時間			
3	○はかりの使い方を知り、ものの重さを調べることができる。	・算数の教科書の重さをはかりで調べる。 ・はかりのよみ方、使い方を知る。	知③：観察・ノート
4	○重さの単位「kg」を知り、重さについておよその見当をつけ、適切な計器で測定できる。	・重さの単位「kg」を知る。 ・ランドセルの重さを調べる。 **【使ってみよう】** ・身の回りのいろいろなものの重さを測定する。	知①②③：観察・ノート 態①：観察・発言
5	○重さを適切な単位で表し、同じ単位どうしで計算ができる。	・箱の重さとおかしの重さから、全体の重さを考える。	知②：発言・ノート
6	○重さの単位「t」を知り、ものの重さについて、適切な単位で表すことができる。	・重さの単位「t」を知る。	知①②：発言・ノート
3　長さ、かさ、重さの単位（p.45 ～ 46）　1 時間			
7	○長さ、かさ、重さの単位の関係に着目し、接頭語が表す倍の関係を統合的にとらえることができる。	・これまでに学習した長さ、かさ、重さの単位についてまとめる。	知④：発言・ノート 思②③：発言・ノート 態②：観察・発言

学習をたしかに（p.47 ～ 48）　1 時間		
8	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「重さ」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。	知①～④：ノート 思①②③：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.131）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。	

13　分数〔分数の表し方を調べよう〕　（下 p.49 ～ 63）

11 月下旬～ 12 月中旬［12 時間］

【単元の目標】

（1）分数が用いられる場合や分数の表し方、分数と小数との関係について理解し、同分母分数の加減計算ができる。
（2）単位分数の個数に着目して、分数の大小比較や同分母分数の加減計算の仕方を考え表現することができる。
（3）整数や小数で表せない大きさを表せる分数のよさに気づき、身の回りから分数が用いられる場面を見つけようとしたり、今後の学習に活用したりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知っている。 ②分数が単位分数のいくつ分かで表すことができることを知っている。 ③数直線を用いて、0.1 と $\frac{1}{10}$ の大きさが等しいことを理解している。 ④同分母の分数の加法及び減法の意味について理解している。 ⑤真分数どうしの加法及び減法、和が 1 までの加法とその逆の減法の計算の仕方を知っている。	①同分母どうしの場合は、単位分数の個数をもとに、分子の大きさを比べることができることに気づき、分数の大きさを比べている。 ②単位分数のいくつ分と見ることで、整数と同じように処理できることに気づき、同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え表現している。 ③同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方について、日常生活における場面をもとに考えたり、図に表して考えたりしている。	①端数部分の大きさを分数を用いて表そうとしている。 ②数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えようとしている。 ③身の回りから、分数が用いられる場面を見つけようとしている。 ④単位として都合のよい大きさを選ぶことで、小数では表せない数も表すことができるよさに気づいている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.49）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　分数（p.50 ～ 57）　7 時間			
1	○単元アプローチ（p.50） ・両手を広げた長さをテープにうつし、1m に満たないあまりの大きさの表し方を考える。		知①：発言・ノート 態①③：観察・発言
	○長さの端数部分の大きさについて、分数を用いて表そうとし、分数の意味や分数のよみ方、かき方を理解する。	・1m のテープをもとに、1m に満たないあまりの大きさの表し方を考える。 ・$\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{3}$、$\frac{1}{3}$ m の意味や表し方、よみ方を知る。	
2	○1m を等分してできる部分の大きさについて、何等分にしているかに着目して、分数の表し方を理解する。	・1m のテープをもとに、色のついた部分の長さの表し方を考える。	知①：発言・ノート 態①：観察・ノート
3	○長さを表す分数は、単位分数のいくつ分かで表すことを理解する。	・1m のテープを 3 等分した 2 つ分の長さの表し方を考える。 ・$\frac{2}{3}$、$\frac{2}{3}$ m の意味や表し方、よみ方を知る。	知②：発言・ノート
4	○「分数」「分母」「分子」の意味を知り、1L より小さい水のかさについて、単位分数のいくつ分かで表すことを理解する。	・1L より小さいかさを分数で表す。 ・「分数」「分母」「分子」の意味を知る。	知①②：観察・ノート
5	○単位分数の個数をもとに、1 より大きい分数の表し方を考え表現する。	・1m や1m より長い長さを分数で表す。	思①：発言・ノート

6	○分数ものさしをつくり、数のまとまりに着目して長さを比較し、小数では表せない数も表すことができるよさに気づく。	**【使ってみよう】** ・1m のテープを使って、分数ものさしをつくり、いろいろなものの長さをはかる。	態②④：観察・発言
7	○等分してできる部分の長さに着目し、分割分数と量分数のちがいや関係を理解する。	・2m の$\frac{1}{4}$（分割分数）の長さは$\frac{1}{2}$m（量分数）であることを考え、分数の意味を確認する。	知①②：発言・ノート
2　分数の大きさ（p.58 ～ 59）　2 時間			
8	○同分母どうしの場合、単位分数の個数をもとに、分子の数で分数の大きさを比較することができる。	・数直線を使って、分母が 4 の分数の大きさを考える。 ・分数の大小関係を考える。	知②：ノート 思①：観察・ノート
9	○数直線を用いて、分母が 10 の分数も小数も、1 を 10 等分したいくつ分で考え表現できることを理解する。	・分母が 10 の分数と小数の関係を考える。	知③：ノート 思①：観察・ノート
3　分数のたし算とひき算（p.60 ～ 61）　2 時間			
10	○単位分数の個数に着目して同分母分数の加法の計算の仕方を考え表現し、計算ができる。	・$\frac{2}{5}+\frac{1}{5}$ の計算の仕方を考える。 ・$\frac{2}{3}+\frac{1}{3}$ の計算の仕方を考える。	知④⑤：ノート 思②③：観察・ノート
11	○単位分数の個数に着目して同分母分数の減法の計算の仕方を考え表現し、計算ができる。	・$\frac{3}{5}-\frac{1}{5}$の計算の仕方を考える。 ・$1-\frac{1}{4}$の計算の仕方を考える。	知④⑤：ノート 思②③：観察・ノート
学習をたしかに（p.62 ～ 63）　1 時間			
12	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「分数」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～⑤：ノート 思①②③：ノート 態①～④：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.132）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

●　ふくしゅう　（下 p.64 ～ 66）

12 月中旬［1 時間］

時間	学習活動
1	○1＜見方・考え方をみがこう＞で、単元で培った数学的な見方・考え方を振り返る。 ○2以降で、2 学期の学習内容の理解を確認する。 ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

14　□を使った式〔□を使った式で表そう〕　（下 p.67 ～ 73）

1 月上旬～ 1 月中旬［ 4 時間］

【単元の目標】

（1）未知の数量を□とすると数量の関係を式に表せることを理解し、□にあてはまる数を調べることができる。
（2）数量の関係に着目し、問題場面を□などを用いた式や図に簡潔に表したり、式と図を関連づけて式が表している場面の意味をよみ取ったりすることができる。
（3）数量の関係を図に表したことを振り返り、未知の数量を□として表すよさに気づき、□などを用いた式を問題解決に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①未知の数量を□などを用いて表すことにより、数量の関係を式で表せることを理解している。 ②未知の数量を□などを用いて表し、その関係を式に表すことができる。 ③未知の数量を□などを用いて表した式について、□に数をあてはめて調べることができる。	①数量の関係に着目し、数量の関係を図や□などを用いた式に、簡潔に表している。 ②□などを用いて表した式そのものが、一つの数量を表していることに気づき、式と図を関連づけて、式が表している場面の意味をよみ取っている。	①数量の関係を図に表したことを振り返り、□などを用いた式に表すよさに気づき、□などを用いた式を問題解決に活用しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.67）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
□を使った式（p.68 ～ 72）　3 時間			
1	○単元アプローチ（p.68） ・算数のお話づくりや問題づくりを通して、商品の個数や値段、予算を意識する。		知①②③：ノート 思①②：発言・ノート 態①：観察・発言
	○加法の場面で、数量の関係に着目し、未知の数量を□として式や図に表し、□にあてはまる数を調べることができる。	・加法の場面で、未知数を□として数量の関係を式に表し、□にあてはまる数を調べる。	
2	○減法の場面で、数量の関係に着目し、未知の数量を□として式や図に表し、□にあてはまる数を調べることができる。	・減法の場面で、未知数を□として数量の関係を式に表し、□にあてはまる数を調べる。	知①②③：ノート 思①②：発言・ノート
3	○乗法の場面で、数量の関係に着目し、未知の数量を□として式や図に表し、□にあてはまる数を調べることができる。	・乗法の場面で、未知数を□として数量の関係を式に表し、□にあてはまる数を調べる。	知①②③：ノート 思①②：発言・ノート
学習をたしかに（p.73）　1 時間			
4	○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「□を使った式」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②③：ノート 思①②：ノート 態①：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.133）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

15　倍の見方〔倍の計算を考えよう〕　（下 p.74 ～ 77）

1 月中旬［3 時間］

【単元の目標】

（1）数量の関係や倍の意味について理解し、比べる量やもとにする量、倍を求めることができる。
（2）数量の関係に着目し、テープ図や□などを用いて倍の計算の仕方を考え表現することができる。
（3）既習の乗法や除法の計算が使えることに気づき、テープ図や□などを用いた式を問題解決に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①数量の関係や倍の意味について理解し、既習の乗法や除法と関連づけて問題場面を式に表すことができる。 ②テープ図や□などを用いて、比べる量やもとにする量、倍を求めることができる。	①数量の関係に着目し、テープ図や□などを用いて、倍の計算の仕方を考え表現している。	①倍の計算の仕方を振り返り、既習の乗法や除法の計算が使えることに気づき、テープ図や□などを用いた式を問題解決に活用しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
倍の見方（p.74 ～ 77）　3 時間			
1	○数量の関係や倍の意味について理解し、テープ図や□などを用いて比べる量を求めることができる。	・25cm の 3 倍の長さの求め方を考える。 ・ある数を何倍かした大きさを求める場合、乗法を使えばよいことをまとめる。	知①②：ノート
2	○倍を求める場面において、数量の関係に着目し、テープ図や□などを用いて、計算の仕方を考え表現し、倍を求めることができる。	・12cm は3cm の何倍の長さかを考える。 ・何倍かを求める計算は、□を使って乗法の式をつくるとよいことをまとめる。	知①②：ノート 思①：発言・ノート 態①：観察・発言
3	○もとにする量を求める場面において、数量の関係に着目し、テープ図や□などを用いて、計算の仕方を考え表現し、もとにする量を求めることができる。	・「□ cm を 6 倍した長さが 30cm」の□にあてはまる数を考える。 ・もとにする大きさは、□を使って乗法の式をつくるとよいことをまとめる。	知①②：ノート 思①：発言・ノート

●　どんな計算になるか考えよう　（下 p.78）

1 月中旬［1 時間］

時間	学習活動
1	○問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて解決する。（倍の場面の演算決定） ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

16　三角形と角〔三角形と角を調べよう〕　（下 p.79 ～ 93）

1 月下旬～ 2 月上旬［10 時間］

【単元の目標】

（1）二等辺三角形や正三角形の意味や性質、角の意味について理解し、定規やコンパスを使って作図することができる。
（2）図形の構成要素に着目し、二等辺三角形や正三角形を分類したり、それらの特徴や性質を見いだしたりしている。
（3）図形の見方を豊かにするとともに、身の回りから二等辺三角形や正三角形を見つけようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①二等辺三角形、正三角形の意味や性質を理解している。 ②二等辺三角形や正三角形を、定規やコンパスを用いて作図することができる。 ③二等辺三角形を作図する中で、正三角形が作図できることに気づいている。 ④一つの頂点から出る 2 本の辺がつくる形を角ということを知っている。	①二等辺三角形、正三角形などの三角形を観察し、ちがいに気づいて分類し、それらの特徴を見いだしている。 ②二等辺三角形や正三角形を紙でつくったり、作図したりすることを通して、二等辺三角形や正三角形の性質を見いだしている。	①二等辺三角形や正三角形の観察や構成を通して、それらの特徴や性質を見いだそうとしている。 ②二等辺三角形の作図の仕方を振り返り、正三角形の作図に活用しようとしている。 ③二等辺三角形や正三角形が敷き詰められることなど、二等辺三角形や正三角形のよさに気づき、身の回りの二等辺三角形や正三角形が、日常生活でどのように活用されているのか調べようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.79）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　二等辺三角形と正三角形（p.80 ～ 87）　6 時間			
1	○単元アプローチ（p.80） ・長さの違うストローを組み合わせて、いろいろな三角形をつくる活動を通して、三角形の構成要素に関心を持つ。		態①：観察
2	○三角形の分類の仕方を考え、それらの特徴を見いだし、二等辺三角形、正三角形の意味や性質を理解する。	・つくった三角形を辺の長さに着目して分類し、分類の仕方を説明する。 ・二等辺三角形、正三角形の意味を知る。	知①：観察・ノート 思①：観察・発言
3	○コンパスや定規を使って、二等辺三角形を作図することができる。	・コンパスと定規を使った二等辺三角形の作図の仕方を考える。	知②：ノート
4	○コンパスや定規を使って、正三角形を作図することができるとともに、折り紙で正三角形をつくることを通して、正三角形の性質を見いだしている。	・コンパスと定規を使った正三角形の作図の仕方を考える。 **【使ってみよう】** ・折り紙を折って、正三角形をつくる。	知②③：ノート 思②：観察・発言 態②：観察
5	○円とその半径を使ってかいた三角形の性質を見いだし、二等辺三角形や正三角形がかける理由を考え、作図することができる。	・円を使った二等辺三角形、正三角形の作図の仕方を調べる。	知②③：ノート 思②：観察・発言
6	○身の回りで、二等辺三角形や正三角形になっているものを見つけ、それらの性質を見いだそうとする。	**【使ってみよう】** ・身の回りから、二等辺三角形、正三角形の形をしたものを探す。	態①③：観察・発言
2　三角形と角（p.88 ～ 91）　3 時間			
7	○角の意味や性質について理解する。	・三角定規のかどの形を調べることを通して、角の意味を知る。 ・大小の三角定規の角の大きさを比べることを通して、角の性質を調べる。	知④：観察・発言

8	○二等辺三角形や正三角形の角の性質を見いだし、特徴を理解する。	・二等辺三角形の形をした紙を折り、二等辺三角形の角の大きさを比べる。 ・正三角形の形をした紙を折り、正三角形の角の大きさを比べる。	知①：発言・ノート 思②：観察・発言
9	○二等辺三角形や正三角形が敷き詰められることなど、二等辺三角形や正三角形のよさに気づく。	**【使ってみよう】** ・二等辺三角形や正三角形を敷き詰め、模様づくりを行う。	態③：観察・発言
学習をたしかに（p.92 ～ 93）　1 時間			
10	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「三角形と角」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～④：ノート 思①②：ノート 態①②③：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.134）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

17　かけ算の筆算（２）〔かけ算の筆算のしかたをさらに考えよう〕　（下 p.95 ～ 106）

２月中旬～２月下旬［８時間］

【単元の目標】

（１）２位数や３位数に２位数をかける乗法の計算について、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることを理解し、筆算で計算ができる。

（２）数のまとまりに着目し、乗数を位ごとに分けたり、図と式を関連づけたりしながら、２位数や３位数に２位数をかける乗法の計算の仕方を考え表現することができる。

（３）２位数や３位数に２位数をかける乗法の計算の仕方について、数のしくみや乗法について成り立つ性質を使うと、計算がくふうできるよさに気づき、生活や今後の学習に活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①２位数や３位数に２位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることを理解している。 ②２位数や３位数に２位数をかける乗法の筆算の仕方について理解している。 ③２位数や３位数に２位数をかける乗法の筆算が確実にでき、それを適切に用いることができる。 ④乗法の交換法則、結合法則、分配法則など、乗法に関して成り立つ性質について理解している。	①乗数を多面的に見たり、図と式とを関連づけたりしながら、２位数や３位数に２位数をかける乗法の計算の仕方を考え表現している。 ②計算に関して成り立つ性質を活用して計算をくふうしている。	①乗法の計算の仕方を振り返り、乗数をどのようにみると既習の計算が使えるのかについて気づき、次の学習に活用しようとしている。 ②計算に関して成り立つ性質を使うと計算がくふうできるというよさに気づき、計算するときに活用しようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
※	「次の学習のために」（p.95）は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1　何十をかける計算（p.96 ～ 98）　2 時間			
1	○単元アプローチ（p.96） ・日付の数を使って、乗法の式をつくり、乗法の計算の仕方を振り返る。		知①：発言・ノート
2	○乗数を 10 の何倍とみて、何十をかける計算の仕方を考え、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることを理解する。	・3×40 の計算の仕方を考える。 ・（１位数）×（何十）の計算の仕方をまとめる。 ・24×30 の計算の仕方を考える。	知①：ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言

② 2けたの数をかける計算（p.99～102） 4時間			
3・4	○乗数を位ごとに分けて、（2位数）×（2位数）の計算の仕方を考え、筆算で計算ができる。	・21×32の計算の仕方を考える。 ・（2位数）×（2位数）の筆算の仕方をまとめる。	知①②：ノート 思①：観察・発言
5	○部分積に繰り上がりのある（2位数）×（2位数）を筆算で計算ができる。	・53×47の筆算の仕方を考える。 ・32×27、25×73の筆算の仕方を考える。 ・（2位数）×（2位数）の派生型の筆算の仕方をまとめる。	知②③：ノート
6	○（1、2位数）×（2位数）の筆算の仕方を数のしくみや乗法の性質を用い、くふうして計算ができる。	・76×30の筆算の仕方を考える。 ・40×78の筆算の仕方を考える。 ・乗数・被乗数の末位が0の場合の筆算の仕方をまとめる。	知④：ノート 思②：発言・ノート 態②：観察・発言
③ 3けたの数にかける計算（p.103～104） 1時間			
7	○これまでと同じように乗数を位ごとに分けて、（3位数）×（2位数）の計算の仕方を考え、筆算で計算ができる。	・147×35の筆算の仕方を考える。 ・264×58、503×47の筆算の仕方を考える。 ・（3位数）×（2位数）の筆算の仕方をまとめる。	知②③：ノート 思①：観察・発言
学習をたしかに（p.105～106） 1時間			
8	○『わかっているかな』で、つまずきやすい内容や培った見方・考え方を確認する。 ○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「かけ算の筆算（2）」の学習をふり返ろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①～④：ノート 思①②：ノート 態①②：ノート
※	「ぐっとチャレンジ」（p.135）は、予備時間などを使って弾力的に扱う。		

● どんな計算になるか考えよう （下 p.107）

3月上旬［1時間］

時間	学習活動
1	○問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて解決する。（乗法・除法場面の演算決定） ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

18 そろばん〔そろばんで計算しよう〕 （下 p.108～111）

3月上旬［3時間］

【単元の目標】

（1）そろばんによる数の表し方を理解し、簡単な1位数や2位数の加法及び減法の計算ができる。
（2）そろばんのしくみに着目し、そろばんによる大きな数や小数の加法及び減法の計算の仕方を考えることができる。
（3）十進位取り記数法のしくみでつくられているというそろばんのよさに気づき、そろばんで整数や小数を表したり計算したりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①そろばんによる数の表し方について知っている。 ②そろばんによる簡単な1位数や2位数の加法及び減法の計算の仕方について知り、計算している。	①そろばんによる大きな数や小数の加法及び減法の計算の仕方を考えている。	①そろばんによる数の表し方を振り返り、十進位取り記数法のしくみでそろばんがつくられているよさに気づき、そろばんで整数や小数を表したり、計算したりしようとしている。

時間	目　標	学習活動	評価規準・方法
1　数の表し方（p.108～109）　1時間			
1	○そろばんによる数の表し方を理解する。	・そろばんの各部分の名称を知る。 ・数のおき方、はらい方を知る。	知①：観察
2　たし算とひき算（p.110～111）　2時間			
2	○そろばんを使って、繰り上がりのない加法及び繰り下がりのない減法の計算の仕方を考え、計算ができる。	・そろばんを使った加法や減法の計算の仕方を調べる。 例　21＋27、87－36、4＋3、7－3	知②：観察・発言 思①：観察・発言
3	○そろばんを使って、繰り上がりのある加法及び繰り下がりのある減法の計算の仕方を考え、計算ができる。	・そろばんを使った加法や減法の計算の仕方を調べる。 例　3＋8、11－8、5＋7、12－7	知②：観察・発言 思①：観察・発言 態①：観察

●　算数ジャンプ　（下 p.112～113）

3月上旬［1時間］

時間	学習活動
1	○重さのはかり方について、はかり方をまとめた表に着目して、使うおもりのきまりを考察する。

＊　レッツ プログラミング　（下 p.114～115）［配当時数なし］

時間	学習活動
※	・「レッツ プログラミング」は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱う。

●　3年のふくしゅう　（下 p.116～120）

3月中旬［3時間］

時間	学習活動
1 ～ 3	○1 2＜見方・考え方をみがこう＞で、単元で培った数学的な見方・考え方を振り返る。 ○3以降で、3年の学習内容の理解を確認する。 ＊時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。